



京都 YWCA

3 2014

YWCAは、キリスト教を基盤に、世界中の女性が言語や文化の壁を越えて力を合わせ、女性の社会参画を進め、人権や健康や環境が守られる平和な世界を実現する国際NGOです。

しのびよる原発 ~福島をベトナムに輸出するのか~

1月13日、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科准教授の伊藤正子さんをお迎えして、日本によるベトナムへの原発輸出の現状についてお話を伺いました。



人々に知らされていない原発の真実

ベトナムと言えばアオザイ、生春巻き、ベトナム雑貨、もちろんベトナム戦争、そしてそのときに撒かれた枯葉剤による被害などが私の印象でしたが、今回、ベトナムについて今まで知らなかった興味深いお話を聞くことができました。ベトナムは政治的に一党独裁で言論や集会の自由が制限されていること、国民も政府の決めたことはしょうがないという態度が一般的だということです。また過去にいろいろ国から多大な被害をもたらされたにも関わらず、「過去は問わない」という姿勢が大勢に見えるということにも驚きました。



学習会の様子

日本が、原発のないベトナムにこれから2030年までに14基も原発を建設する計画であること、またその原発でまかなう電力はたったの8%しかないということを知り、何ともやりきれない気持ちになりました。そして貧しいけれど自然の恵みで暮らしている人々が、原発によってこれからどんな苦しみを味わうのかと思うと堪りませんでした。お話を通して、情報統制をされて、原発の安全神話を植え付けられている多くのベトナムの人たちに日本が行おうとしていることの罪深さを知り、自分に何ができるかという問いをつきつけられた一日でした。

私たちができることは原発の真実を知らせること

参加者の中に数名高校生が参加しており、その一人の感想を一部紹介いたします。

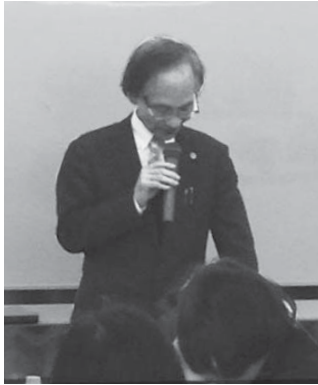
13日の講演会に出席させていただき、日本の原発輸出の動きや、ベトナムの原発が建てられる予定地に住む方々がどのような思いでいるのかなど、今までなかなか知ることのできなかつた問題について考えることができました。講演会では現地で撮影された映像や、ベトナム内で起きた反対運動のお話などがあり、高校生の私にも理解することができました。私は昨年の夏に偶然ベトナムに研修旅行に行ったばかりだったので、現地で交流した高校生や子どもたちのことが思い出され、お話を身近なものに感じました。

また福島原発事故後、いったんは止まっていた計画が再びおしすすめられているということに驚きました。日本国内でも原発に関する論争が起きている中で、輸出をすすめているというのには疑問を持ちました。

先生はお話で、ベトナムの政治体制や実際に原発に反対して起きた事件などを考慮すると、日本にいる私たちができることは、ベトナムから日本に来ている方に原発について話すことくらいしかないとおっしゃっていました。私にできることは少ないかもしれませんが、原発といった難しい問題についてもしっかりと自分の考えを持ち、伝えていくことが大切だと改めて感じました。

今回の学習会には、初めて来られた方も何人かおられ、人々の関心の深さを知るとともに、大きな学びのひとときとなりました。
(平和委員会 木戸さやか)

「やばいよ！やばいよ！秘密(ヒミツ)保護法案」緊急学習会



講師の小笠原伸二弁護士

2013年12月6日、特定秘密保護法案の「強行採決」の瞬間がテレビで流れた時、民主主義の崩壊がとうとう来てしまったと落胆した人が多かったのではないのでしょうか。私もその一人でした。法案に反対する多数の国民の意見は無視され、法律が成立してしまいました。

12月13日、京都YWCA 平和委員会はこの法律の危険

性を多くの人に知ってもらおうと、小笠原伸二弁護士をお招きして緊急学習会を開催しました。

お話の中で特に印象に残っている内容は、私たちのような市民活動をしている者への監視が強化されるということです。政府が「秘密」と指定した国策に反対する者は「テロリスト」と見なされ、逮捕される可能性もあるということです。「秘密」が何なのか不明確なまま、いつどこで自分が逮捕されるかも分からない。この法律に怯えながら活動をしていか

ないといけないと思うと、個人の尊厳や自由が奪われているように感じます。

改めて、市民団体の役割とは何でしょうか？私は、ひとつの役割は、政府が行っていることを監視し、間違ったことに対して異議を唱えることだと思います。自衛隊のイラク派兵が憲法違反だとする裁判で勝訴したのもその動きの一つだと言えます。また、東日本大震災の時、どの行政機関よりも俊敏に救援活動を行ったのは市民団体でした。私たち市民団体の存在意義がようやく社会に認知された矢先に、この法案が成立してしまいました。これからどのようにして政府の暴走を止めていけるのでしょうか？

ただ、小笠原弁護士は私たちに希望も残してくれました。法が施行されても、憲法を盾に無効にすることは可能だと言われました。ただしそのためには、国民が反対の意思表示をし続け、行動を起こす必要があります。私たちが忘れた頃に、この法律が動き出すかもしれません。長年社会的に弱い立場にある人たちに寄り添い、平和憲法の大切さを訴えてきた団体として、この法律の撤廃を求める声をあげ続けていきたいと思っています。

(平和委員会 菅谷菜穂)

響け！「こころとこころのハーモニー」

～京都に放射能避難移住したジャズピアニストと詩人によるコラボレーション～

1月26日(日)、京都に避難されている方々、ジャズピアニストの河野康弘さん、詩人の中村純さんを応援されている方々、YWCA 会員などが参加して開催されました。

前半は、自然保護、世界平和コンサート活動や眠っているピアノのリユース、施設などへの寄贈活動をつづけている河野さんのお話を交えてのピアノ演奏。曲は「四万十川」でスタートし、参加者も声を出してコラボしたり、時にはピアノを弾いたり、ジャズのコネを飛び越えて、自然に体に伝わってくる演奏曲の数々を楽しみました。

後半は、河野さんのピアノをバックに中村純さんの朗読とお話。中村さんの詩「もしも私たちが渡り鳥なら一全ての母たちへ」、バーバラ・クーニーの絵本「ルピナスさん」をもとに作られた詩「風よ、吹け 美しい彼方へ」

などを朗読されました。

中村さんは、原発事故後、当時息子さんは2歳で東京港区の保育園の保護者たちと尿検査をしたら、子どもたちの尿からセシウムが検出されたことを機に、「どんなに努力しても子どもを守ることはできない」と思い京都への避難を決められました。京都に来て、疎開移住者ネットワークを作り、情報交換などで支えあいながら、検診プロジェクト「内部被曝から子どもを守る会」*の活動を行っていて、避難移住者の手記を広めることに力を注いでおられます。支援・被支援の関係ではなく、子どもたちの当然の権利である安心して育つ権利、健康を害されない権利を求める活動です。

お二人の真摯な姿勢が溶け合って美しいハーモニーを醸し出し、ライブ終了後もお二人を囲んでの語らいはしばらく続きました。



*「内部被曝から子どもを守る会・関西」：東日本から、原発事故により関西に移住してきた方たちと、西日本の地元の方たちの情報交換で始まった。京都府内に避難移住している子ども(18歳以下)で甲状腺エコー検査を希望される方をサポートする検診プロジェクト(検診+相談・学習会)を実施。

(親・子育て支援活動委員会 坪野えり子)

シリーズ「理不尽な世界であきらめずに楽しく生きる」(最終回)

理不尽な世の中で前向きに楽しく生きる

パレスチナ・オリーブ 皆川 万葉

被災地では「震災を忘れない」という言葉は奇妙にも聞こえます。「震災後」は毎日続いていて忘れようもないからです。3年前からの問題は解決されずに山積み。その上、地域のこと、仕事のこと、家族のこと等、状況はより複雑になってきています。

悲しみや傷を抱えながら前向きに進んでいる人たちも多いけれど、取り残され深刻なケースになっている人も多い。地震・津波・原発事故によるいずれの被災者でも、落ち着き先(住むところ)の決まっていな人たちも多数いるのです。また、震災直後は、避難所的な役割も果たした仙台市内の既存のカフェが、放射能情報コーナーを作ったり、顔を合わせて話のできるイベントを増やしたりとそれぞれ工夫しています。震災に直接関係ないようでも、文化イベントやワークショップで、震災の疲れが癒されたりします。

3年経って始まったこともあります。私たちは、震災直後から仙台の街中にコミュニティカフェを作るうと活動しながら、実際にカフェを持つことはできませんでした。いま、仙台の郊外に、「みちのくひかりピリカ」を

始め、継続的な活動のためのスペースがいくつかできつつあります。これは県外からの支援ではなく、震災後に必要性を感じた、仙台の人たちが作り上げたものです。

「モノとチエをもちより、かんがえ、わかちあう」暮らしを

「理不尽な世の中で前向きに楽しく生きる」という言葉が浮かんだ時、被災地だけではなく、パレスチナや沖縄の友人・知人たちを思い浮かべていました。私自身は、まだ、本当は「前ってどっち?」と思い、「前向きに生きられたらいいなあ」という気持ちでした。いまは「前向きに楽しく生きるしかないのだ」と思っています。理不尽でがっかりすることが続いても、あきらめるわけにはいかない。

「モノとチエをもちより、かんがえ、わかちあう。みちのく+くらし。」を作り出して行きたいというコミュニティカフェのメンバーの志は変わっていません。今後とも、被災地、被災者を見守って下さるよう、よろしく願いいたします。

お母さんの活動や学びを支援する 「子育てサポーター養成講座」開催

YWCAでは、子育て中の母親たちの活動や学びの機会を保障することが数年来の課題となっています。そこで、親・子育て支援活動委員会では、京都府地域力再生プロジェクトの助成を受け、2013年11月から2014年1月にかけて、ボランティアの基本や保育の基礎知識、乳幼児の救急法、発達障がいに対する理解など、京都YWCAの活動に即した内容の子育てサポーター養成講座を5回シリーズで開講しました。第4回の内容を以下紹介します。

多文化背景の子どもたちへのサポート

1月9日には、平野知見さん(京都造形芸術大学こども科准教授)から多様な言語や文化で育まれている子どもへのサポートについて学びました。これまでに日本語教室でお母さんが学ぶ間、子どもが保育サポーターと過ごしていると、言葉が通じない不安のせいかずっと泣いていたり、何を訴えているのか分からないなどの課題が指摘されていました。平野さんは、9年間オーストラリアで暮らした経験や、現在進行形のご自身の子育てを踏まえて、具体的に示唆に富むお話をして下さいました。

受講者柘島真理さんの感想

滋賀県下の就学前の子ども達の国籍が24ヶ国もあると知りびっくりしました。言葉や文化の違いがある子ども達や保護者とのコミュニケーションのとり方が大変である事を講師の方の実体験を聞き痛感しました。しかし保育の現場で色々な工夫をされている事を知り、実際に体験させて頂きました。

1つ目はペープサートのコミュニケーションカードで、子ども達が、今どんな気持ちなのかをカードを使って表現できる素敵な方法だと思いました。その他にも絵画を使っての遊びがあり、絵は言葉や文化の違いを越えて楽しめる教材である事を知り、とても興味が湧きました。現在、日本語教室の保育サポーターをしています。言葉だけでなく遊びの中でも子ども達とのかかわりを深め、お母さんが日本語を勉強されている間子ども達と一緒に楽しい時間を過ごせるようにしたいと思いました。



第5回「絵本の読み語りや乳幼児の遊び」の様子

今後のプログラム

竹中真 ジャズピアノコンサート

世界のさまざまな国で演奏や講義を続けているジャズピアニスト竹中真さんによるコンサートを開催します。バラエティあふれる素敵な音色に耳を傾けてみませんか？

日時：2014年3月9日（日）
14:00～16:00
13:30 開場

参加費：2,500円（お茶菓子付き）
会員割引有

対象：一般
場所：京都YWCAホール
定員：80名
予約：要

「ガジュマルの樹」 春休みデアウト

春休み中の小学生を対象にした「ガジュマルの樹」デアウトプログラム。宿題をしたり、お友達と一緒に遊んだり、普段の学校生活では得られない「学び」につながるワークショップも実施します。

日時：2014年3月25日（火）・
26日（水）・27日（木）
それぞれ10:00～17:00

対象：小学1～6年生
参加費：3日参加4,500円
1回参加2,000円
兄弟・姉妹割引あります。
（2人目から25%引き）
定員：20名 ※先着順

カフェ・ボランティア大募集！

京都YWCAでは、今年9月からの新事業として、サマリア館にふれあいの居場所「うららかふえ」を開きます。人と接するのが好きな方はもちろん、お料理が好きな方、空いた時間を人と自分のために活かしたい方など、どうぞご応募ください。

<募集内容>

営業日：火～土、11:00～16:00
そのうち火・水・土を担当。

（日・祝日・月、その他夏と冬のYWCA閉館日はお休み）

仕事内容：原則1日3人で担当。

☆最初から3人でのグループ応募もできます。

その場合、少なくとも1人以上は京都YWCA会員・会友であること。

時間：1か月12回～15回のオープン日のうち1回以上を担当します。
準備・後片付けを含む10:00～17:00。
終日のほかに、午前・午後の各3時間以上でも応募できます。

※交通費補助あり。詳細はお問い合わせください。

ご寄付ありがとうございました。

2013年11月1日から2014年1月31日
寄付者一覧（敬称略、順不同）

一般寄付

福原有季子、佐野千枝子、吉岡恵津子、
中川美佳子、服部素、荒垣加津子、南典子、
中村和雄、清水義、上村愈巳子、平野富希、
田淵豊子、後藤アユ子、伊藤美子、
宮武美知子、岡佑里子、井上依子、
平安女学院中学校高等学校チャペレン室、
同志社女子高等学校

各指定寄付

*フィリピン台風被災者支援

日本キリスト教団京都上賀茂教会

*多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業 にむけた改修募金

大島紗綾子、日月公子、荒垣加津子、山本智也、
別所加恵、神門佐千子、山村茂代、田淵豊子、
織田雪江、木戸さやか、川崎愛、新海恵子、
飯田千鶴子、橋本莉世、萩原奈苗、竹中克彦、
山際知子、小寺敬子、清水義、堀部碧、
日本キリスト教団洛北教会、匿名2名

*90周年みらい募金

木戸さやか、原田みな美、
ヌヴェール愛徳修道会深草修道院

*東日本大震災被災者支援

辻野茂子、神門佐千子、上村愈巳子、
クリスマスバザール来場者

*親・子育て支援委員会

別所加恵、坪野えり子、平野富希、匿名1名

*APT

篠田茜、宇山進、中路綾夏、上内英子、林律、
吉田紀子、高山享、清水弥生、永井靖二、
上原正、金児明子、木戸さやか、近野玲子、
仲本直子、上内鏡子、小澤亘、安藤いづみ、
匿名、京都・東九条CANフォーラム、
ヌヴェール愛徳会深草修道院、
ヌヴェール愛徳会本部修道院、
ノートルダム教育修道女会、ピーコス、
京都上賀茂教会

*国際委員会

篠田茜、木戸さやか、川崎愛（洛楽へ）

*平和委員会

木戸さやか

*次世代プログラム委員会

木戸さやか

*子どもの居場所委員会

匿名1名

*うららかふえ

篠田茜、吉田紀子、宮武美知子

多世代・多文化ふれあいコミュニティ事業 にむけた改修会債にご協力いただいた方々

2013年11月1日から2014年1月31日

日月公子、(株)神港洋行、鍛冶富美子、松田彌壽子、
織田雪江、畠中隆子、安藤いづみ、新海恵子、
小寺敬子、梶川雅子



手作りのぱんやさん

キートス

北欧 フィンランドのパンをご家庭に・・・

京都市中京区壬生坊城町33 グラデール朱雀002

TEL・FAX：075-842-0585

URL：http://www.5a.biglobe.ne.jp/~kitos/

1月・2月／理事会報告

- 90周年記念チャリティコンサート「アストロリコ四重奏の夕べ」
*2014年5月30日（金）於：京都御幸町教会 チケット（3,000円）販売開始。
- 改装前特別セール「ぶち古本市」開催中（3月末まで）
- 臨時閉館：2014年3月28日、29日、31日
- 2013年度年度末見込みを確認、2014年度予算第2案を協議。
*引き続き、改修のための会債・募金を推進。
- 9月以降入居する留学生対象のホストプログラム等の検討を開始。
- 国交省先導的事業（多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり）の「情報提供及び普及」のために、メディアクリエイター集団と打ち合わせ開始。
- 2014年4月から新職員採用：臼井一美さん

KYOTO YWCA No.519

2014年3月号（3月1日発行）

発行人 上村愈巳子

発行所 一般財団法人京都YWCA

京都市上京区室町通水上ル

電話 (075) 431-0351 FAX (075) 431-0352

e-mail office@kyoto.ywca.or.jp

URL http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替 01080-9-1566

口座名義 (一財) 京都YWCA

定価 50円